

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ 教授
氏名 Name	村上 忠良
専門分野 Academic Field	文化人類学・タイ地域研究

主たる研究テーマ Principal Research Subject	宗教実践における声と文字—仏教文書文化からみたシャンの在家朗誦
<p>本研究では、仏教文書の崇拝、奉納、朗誦、書写、保存、継承といった宗教実践を「仏教文書文化」と捉え、その事例研究として、シャン語・シャン文字で書かれた仏教文書の朗誦を研究対象として取り上げ考察を行った。伝統的に朗誦と拝聴によって人々に享受されてきたシャンの仏教文書は、記述された内容を読者個人が黙読を通して受容し、鑑賞するという近代文学の書物とは異なり、声を媒介としたテキストの享受（共有）が特徴である。</p> <p>今年度は、タイ国北部の泰緬国境地域におけるシャンの在家女性信徒によるシャン語版「タンマチャッキヤー朗誦」（初転法輪経朗誦）についてのデータの収集を行い、シャンの仏教書朗誦の実践との比較研究・タイ国内の仏教書朗誦との比較研究を行った。</p> <p>シャン語版「タンマチャッキヤー朗誦」は、パーリ語の『初転法輪経』（Dhammacakkappawattana-sutta）のシャン語訳が中心となる朗誦用のテキストで、これに加えて、「五戒請願句」「諸天善神招来句」「仏法僧礼賛句」などのシャン語誦句も朗誦され、朗誦自体が一つの仏教儀礼としての構造を持つ。</p> <p>シャン語の韻文で書かれた仏教書の朗誦という点では、在家朗誦師チャレーによる仏教書リークローンの朗誦との共通点がある。但し、在家朗誦師チャレーの朗誦は主として男性に担われ、一人で行われるものであるのに対して、タンマチャッキヤー朗誦は、女性の朗誦団による複数名での斉唱である点が異なっている。また、朗誦師チャレーが朗誦するリークローンは、仏教書の一ジャンルであり、複数のタイトルの作品があり、儀礼の機会に合わせて、適切なタイトルのリークローンが朗誦されるが、タンマチャッキヤー朗誦の場合には、タイトルはタンマチャッキヤーのみである点が異なる。</p> <p>また、タイ国内の仏教書朗誦では、クローン朗誦 (klon suat) があるが、これはシャンの仏教書朗誦ではリークローンの朗誦に対応するものである。一方シャンのタンマチャッキヤー朗誦と比較可能なものは、主として女性によって朗誦されるサラパンヤー唱経である。今後はシャンとタイ国内の仏教朗誦の比較研究をさらに進めていく予定である。</p> <p>この今年度の研究成果の一部を、2017年12月16～17日にチュラーロンコーン大学（タイ国バンコク）で開催された国際研究集会「アジアにおける東南アジア研究」（Southeast Asian Studies in Asia: SEASIA）にて、”Shan Lay Buddhist Recitation in Northern Thailand: Comparing <i>Lik Long</i> and <i>Thammachakya</i>”として発表した。</p>	